

華族世襲財產法改正法律案特別委員會會議事速記録第五號

大正五年二月十日(水曜日)午後一時四十八分開會

○委員長代理(子爵岡部長職君) 是ヨリ開會イタシマス、本日モ徳川委員長ニハ病氣ノ爲ニ出席イタサレマセヌ、而シテ富井副委員長ニ於カレマシテハ昨日ニ引續イテ小委員ノ修正ニ付キマシテ、尙ホ説明サルコトガアルヤウデアリマスノデ、其間本員ガ委員長ノ代理ヲ勤メマスコトニ相成リマシタ

○富井政章君 昨日小委員會ノ修正案ヲ説明イタシマス際ニ一ツ申上ケルコトヲ落シタコトガアリマスカラ、チヨット補テ置キタイト思ヒマス、ソレハ提出案第十六條ヲ削除シテ理由デアリマシテ、是ハ私ガ昨日申述ベマシタ理由ノ外ニマダ斯ウ云フ理由ガ一ツアルノデアリマス、ソレハ不動産ノ管理方法ニ付テハ或程度マデハ施行規則ニ於テ相當ノ規定ヲ置クト云フコトデアリマス、旁々以テ本條ヲ削除スルコトニナッタデアリマス、ソレカラ立チマシテ序ニト云フト變デアリマスガ、昨日奥田博士ヨリ小委員會ノ修正案ニ對シテ幾ツカノ御意見ガ出マシタ、ソレニ關シテ少シク私ノ考ヲ述ベタイト思ヒマス、大抵ハ贊成デアリマス、先ツ第一ニハ第四條ノ第二項ヲ削除シテハドウカト云フ御意見デアリマス、是ハ削除ニ贊成イタシマス、此規定ヲ置クニ至リマシタ理由ハ第一條ト關係デアリマス、第一條ニ於テ世襲財產ノ最高限ヲ示スト云フコトニナッタ以上ハ、其限度ヲ超エテ居ルカ居ラナイカト云フコトヲ極メニ付テ、宮内大臣ニ參考ノ材料ヲ與ヘルト云フコトガ至當デアラウト云フ理由デ、此規定ガアツタ方ガ宜シカト考ヘタノデアリマス、併ナガラ或ハ必要ガナイカモ知レヌニ、初メヨリ一家ノ財產狀態ヲ、縱令概況ニモセヨルニ曝スト云フコトハ望ムシクナイコトデアリマス、必要ガアレバ第六條第二項ニ依ツテ宮内大臣ガ調査スルデアリマセウカラ、無クテモ宜シカト思ヒマス、何レデモ私ハ大シタ……有ツテモ無クテモ大シタ違ヒハナイト思フノデアリマスケレドモ、削除スルコトニ贊成イタシテ宜シウゴザイマス、ソレカラ第八條ノ「又ハ民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分ニ著手シタル者」ト云フコトヲ改メテ、廣ク「債權者」トシテハドウカト云フ御意見デアリマス、原案ノ趣意ハ世襲財產ト直接關係アル權利デナケレバ保護シナイト云フ趣旨ニ基イテ出來テ居ルノデアリマシテ、是モ大ニ理由ガアルト思ヒマス、併ナガラ債權者ノ保護ト云フコトモ考ヘネバナラヌコトデアアル、固ヨリ此ニ謂フ執行行為ガナクテモ、苟モ債權者ヲ害スル目的ヲ以テ、ソレ迄デナクテモ債權者ヲ害スルコトヲ知リツツ世襲財產ヲ設定シタ場合ニハ、私ノ考デアハ民法第四百二十四條デアリマシタカ、アノ規定ニ依ツテ其詐害行為ヲ取消スコトガ出來ヤウト思フノデアリマス、併シ世襲財產ノ設定ガ果シテ法律行為デアルカト云フコトハ少シハ疑ハシイノデアリマスケレドモ、大抵ハ取消ガ出來ヤウト思フノデアリマス、併シソレニシテモ詐害行為ヲ取消スニハ訴ヲ起サナケレバナラヌ、サウシテ其行為ニ依ツテ債權者ガ損害ヲ被ツタト云フコトヲ證明セネバナラヌ、又世襲財產設定者ニ於テハ其結果ヲ知ツテ爲シタト云フコトモ證明セネバナラヌ、而シテ取消ノ結果ハドウナルカト云ヘバ世襲財產全部ガ取消サレシマフト云フコトニナルノデアリマス、ドウモ是ハ餘程考ヘモノデアラウト思ヒマス、寧ろ廣ク債權者トシテ置イテ、法律ノ保護ヲ完ウスルト

云フ方ノ主義ヲ執ツタ方ガ宜カラウカト考ヘマス、固ヨリ是ハ一利一害デアリマス、廣ク債權者トシテ、或ハ種々ノ債權者ガ現ハレテ出ルカモ知レヌ、其邊ハ大ニ考ヘモノデアラウト思ヒマスケレドモ、併シ是ハ又世襲財產ノ設定ヲ許スルコトニ付テ、宮内大臣ガ大ニ攻究スベキコトデアラウト思フ、ドレダケ債權者ガアツテ辨濟ガナサレテ居ナイ、ソレニ世襲財產ヲ設定シテ辨濟ガ出來ナイヤウニシテシマフト云フコトハドウモ宜シクナイ、ソレ故ニ認可セナイ、或ハモット減少セヨト云フヤウナコトニスルカ、免モ角宮内大臣ニ於テ考ヘルト云フコトガ必要デアラウト思フ、ドレダケノ債權者ガアルト云フコトヲ知ル途ヲ與ヘルト云フコトガ必要デアラウト思ヒマス、是モ贊成イタシマス、ソレカラ第九條是モ贊成デアリマス、世襲財產トナサムスル財產ノ中世襲財產トシテ宜イト思フモノト、認可スベカラズト思フモノモアルカモ知レヌ、ソレ故ニ是ハ全部又ハ一部トシタ方ガ、總テノ場合ニ於テ適宜ノ處置ヲ執ルコトガ、出來得ルノデアリマスカラ宜シカラウト思ヒマス、是モ贊成イタシマス、ソレカラ第十八條、不法行為ニ依ル損害賠償ノ請求權ノ外ニ、世襲財產ノ管理ニ依ツテ生ジタル權利ヲ除外シテハドウカト云フ規定デアリマス、是モ大贊成デアリマス、是ハ不法行為ホドニ、行為ソレ自身ハ重大デナイニモセヨ、世襲財產其モノニ關シタ權利義務デアアル、世襲財產ノ管理ニ關シタ權利義務デアアル、例ヘバ管理ノ費用トカ、管理人ノ給料トカ云フヤウナモノハ、世襲財產ノ管理ニ密接ノ關係アル債務デアリマスカラ、是ハ矢張り世襲財產ヨリ支辨シ得ル途ヲ開クガ相當デアラウ、是モ贊成イタシマス、其次ハ第十九條デアリマスガ、重大ナル事由アル場合ト交換ノ場合ト一ツニシテシマツテ、何レノ場合ニ於テモ、全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得トシテハドウカト云フ御意見デアアル、是ハ理論上ヨリ云ヘバ誠ニ其方ガ宜イト思ヒマス、又法文ノ體裁トシテモ、其方ガ遙ニ優ツテ居ルト思ヒマスガ、實際問題トシテハ、ドウモ昨日申上ゲタヤウナ弊害ガ生ジナイトモ言ヘナイ、初メヨリ全部トシテ置イテハ、此規定ヲ濫用シテ、債權者ハマアドウシテモ酷ニ出ルデアリマセウ、一度ニ世襲財產ヲ無クシテシマフト云フヤウナコトガ生ジナイトモ言ヘナイ、法文ハドウモ此ニ一ツノ場合ヲ書分ケル程ノ理由ハナイト思フノデアリマスケレドモ、實際問題トシテハドウモ其方ガ安全デアアルト云フ説モ理由ガアルト思ヒマス、又是ガ吾々一己ノ意見ヲ書現ハスナラバ、私ナドハ又考ガ違フノデアリマスケレドモ、法律トスルニハ多數ノ人ノ意見モ考ヘネバナラヌト思ヒマス、先ツ一部ニ限ツタ方ガ宜カラウト云フ意見ヲ持ツテ居ラルル方ガ或ハ澤山アルノデアナイカト察シマス、ソレ故ニ是ハ此會於テモ多數ノ御方ガ其方ガ宜イト云フ御意見デアレバ、私ハ強ヒテ反對シテ、小委員會ノ修正案ヲ固執シヤウト云フマデノ考ヘナイノデアリマスケレドモ、マア何レカト云ヘバ斯ウ云フ風ニシテ置イタ方ガ安全デアラウト考ヘルノデアリマス、ソレダケノ理由ニ依ツテ、此御意見ニ贊成スルコトニハ少シ躊躇スルノデアリマス

富井博士ヨリ、此奥田博士ノ意見ニ對シテ、大體ニ於テ贊成ヲ表スルト云フ、唯今段々詳シイ御陳述ガアリマシタガ、此奥田博士ニ質シマスルト、昨日ハ未ダ修正意見トシテ提出セラレタノデハナイサウデス、委員諸君ノ參考ニ供スルト云フ意味ヲ以テ、疑ノアル所ヲ述ベラレタト云フニ過ギナイト云フコトデアリマスカラ、本日ハ私ハ奥田博士ニ代ル意味合ヲ以テマシテ、茲ニ形式的ニ修正意見トシテ提出ヲ致シタト思フデアリマス、其第一點ハ昨日モ本日モ問題ニナリマシタ第四條ノ第二項ヲ削除スルト云フコトデアリマス、此第二項ノ削除ニ付キマシテハ、私ハ昨日委員會議ニ於テマシテ、成ルベク此項ヲ存置シタト云フコトヲ私ハ申述ベタノデアリマス、併ナガラ之ヲ存置イタシマシタ所デアリマス、其財產ノ概況ヲ知ルト云フコトデアリマス、果シテ財產ノ實況ヲ知ルト云フコトニハ甚ダ乏シクデアリマス、元々サウ云フ意味合ヲ以テ此二項ヲ設ケラレタノデアリマスカラ、成ル程效能ノアルベキ箇條トモ考ヘマセヌノデアリマス、而シテ此項ノ削除ニ付キマシテハ、承ハル所委員ノ多數ハ矢張り削除ノ御意見ト云フコトデアリマス、私ハ昨日ノ自分ノ疑ヲ除キマシテ、此四條ノ第二項ヲ削除スルト云フ形式的修正意見ヲ提出イタシマス、ソレカラ次ハ第八條ノ第一項デアリマス、又ハ民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分ニ著手シタル者」是ダケヲ削リマシテ、其代リニ「及債權者」ト云フ四字ヲ此所ニ入レルノデアリマス、即チ「前條ノ規定ニ依リ公告シタル財產ニ關シ權利ヲ有スル者及債權者ハ前條第一項ノ」ト云フ斯ウ云フ文字ニ修正ヲ加ヘタト思フデアリマス、斯ノ如クニ修正イタシマシタ理由ハ先刻富井博士ヨリ贊成ノ御意見トシテ述ベラレタコトト同ジコトデアリマス、唯富井博士ノ述ベラレタコトニ付テ私ハ必シモ全然意見ヲ同ジウシテ居ル譯デアリマセヌケレドモ、併ナガラ斯ノ如クニ修正スルト云フコトノ必要ナル理由ニ付キマシテハ、全然同感デアルノデアリマス、ソレカラ第九條、「宮内大臣ハ世襲財產ノ設定ヲ認可スヘカラスト認ムルトキハ」ト云フコトヲ改メマシテ、「宮内大臣ハ世襲財產設定ノ認可ノ申請ノ全部又ハ一部ヲ認可スヘカラスト認ムルトキハ」ト云フトシテ……餘リ巧ミナ文章デアリマセヌガ、色々考ヘテモ見マシタケレドモ、一番理窟ニ適シ居テル文字ノヤウニ考ヘラレマスノデ、斯ウ云フヤウニ修正ヲ致シタインデアリマス、而シテ其修正ノ理由ニ至リマシテハ、私ハ重ネテ茲ニ述ブル必要ハナカラウト思ヒマス、ソレカラ次ハ第十八條、第十八條ノ第一項中デアリマス、「世襲財產及第十六條ニ掲グル權利ハ不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求ノ爲ニスルノ外云々」ト云フコトニナツテ居リマスガ、之ヲ改メマシテ「世襲財產及第十六條ニ掲グル權利ハ世襲財產ノ管理ニ因リテ生シタル權利及不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求ノ爲ニスルノ外云々」ト云フコトニナツテ居リマス、斯ウ云フコトニ修正ヲシタインデアリマス、斯ノ如クニ修正イタシマスル實質上ノ理由ニ至リマシテハ、昨日奥田博士ヨリ既ニ述ベラレタコトデアリマスカラ、私ハ重ネテ申述ベマセヌ、文字ニ付キマシテハ大體第二十五條ノ文字ニ倣フデアリマス、重ネテ申シマスルガ、諸リ世襲財產ノ管理ニ因リテ生シタル權利及不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基イテハ下ニ書イテアルコトガ出來ル、斯ウ云フ趣意ニナルノデアリマス、ソレカラ序ニ申述ベテ置キマスルガ、十九條ニ付キマシテ奥田博士ヨリ述ベラレマシタルコトハ、私ハ先刻モ申上ゲマシタ通り、修正意見トシテ述ベラレタ譯デアリナイサウデアリマスカラ、此修正意見ハナイト云フコトニ委員會議デアハ御承知ニナツテ然ルベキコトト思フデアリマス、

即チ以上申上ゲマシタ四點ニ付テ修正ヲ加ヘタト思フデアリマス
 ○奥田義人君 私ハ昨日當委員會ニ於キマシテ、唯心付キマシタ點ヲ皆サンノ御參考ノ爲ニ申上ゲマシタデアリマス、本日重ネテ岡野博士ヨリ四點ニ付テ修正案ガ提出セラレマシタニ付テハ、全部之ニ贊成ヲ致シテ置キマス
 ○子爵水野直君 私ハ第四條ノ二項ノ唯今ノ修正ノ說ニ付テ御贊成ヲ表シタト思フ、實ハ之ヲ修正ヲ致シタト思フ、今日意見ヲ述ベテ御參考ニ供シタト思ヒマシタ、所ガ幸ニモ岡野博士カラ此修正ノ御意見等ガ出タノデ、自分ノ意見ト全ク一致ヲ致シマスニ依リテ、自分ノ理由ハ格別述ベマセヌデアリマス、私ノ考ヘマシタ所デアハ、今度ノ修正案ノ根本ノ所ガゴコニアルカト云フ、政府ノ提出案ハ時勢ノ進運ニ伴フテ之ヲ改正スルト云フコトデア、解除ト云フコトガ重ナルモノデア、此解除ト云フコトハドウ云フ割合ニナツテ居ルカト云フ、世襲財產ノ設定者ト云フモノハ全華族ノ二割七分ニホカナラス、諸リ其間ニ適用スルノデ、其アトノ七割三分ハ未ダ設定シテナイ、所ガ時勢ノ進運ニ從テ世襲財產ノ保護ヲシヤウト云フノハ、アトノ七割三分ノモノヲ重ク見ナケレバナイ、斯ウ考ヘルニ依リテ、ドウカシテアトノ七割三分ノ人ニモ相當ノ世襲財產ヲ設定シタト云フ考デア、其點ニ於テ何カ御修正ヲ願ハウト思フ居リマシタ、併ナガラ其設定ニ付テ、強制的ニ總財產ノ概況ヲ知ルニ足ルベキ事項ヲ附記スルト云フコトハ害ガアルカラ任意ノ方法ヲ取ルコトニ願ヒタト云フコトガ自分ノ考デアリマシタ、所ガ唯今ノ何ニ依リテ成立チサウニ思ヒマス、サウ云フ理由ヲ以テ此點ハ御贊成イタシマス、今度修正案ヲ御提出ニナツタ時デアリマスカラ、又戻ツテ質問スルコトモ如何カト思ヒマスケレドモ、重要ナ法案デアモゴザイマスカラ、一ツ自分ノ疑ノ存スル所ヲ一應同ジテ見タト思ヒマス、ソレハ第一條ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍ト云フコトヲ、通俗ニ分ルヤウニシテ置キタト云フコトノ爲ニ、誠ニ下ラナイ疑ノヤウデアリマスケレドモ、疑ヲ茲ニ出シテ、サウシテ之ヲ御説明ヲ願フヤウニシタト思フノデ、家格ヲ維持スル範圍内ト云フコトハ、御説明ヲ昨日カラ伺ヒマスルト、世襲財產ニ對スル最高限度ヲ定メタモノデア、斯ウ云フコトナシタル、最高限度ヲ定メタト申シマスルト、最高限度ハ何デアアルカト云フ、華族全體ニ通ジタ所ノ最高限度デアハナイ、諸リ家格ヲ維持スル爲ニ百万圓ナラ百万圓ヨリ上ノ財產ヲ世襲財產トシテハナラス、斯ウ云フコトデアハナイ、然ラバト云フコトハ伯子男爵或ハ公侯爵ト云フモノガ其箇ニ應ジテ幾ラト云フ限度デアナイ、全ク戸々家々ニ付テノ最高限度デア、斯ウ解釋シテ宜シイノデアリマス、サウ致シマシテ若シ戸々家々ノモノトスルト、又其家々ノ經濟状態ニ依リテ家格ト云フモノハ最高限度ガ變ハル、斯ウ解釋シテ宜シイノデアリマス、標準ノヤウナモノデア、是ガ標準デア、最高限度ト云フコトガ始終變テ居ルモノデア、標準ノヤウナモノデア、是ガ標準デア、ヤウナ風ニ考ヘラレ、斯ウ云フコトヲ前提トシテ考ヘマスト、總テ總財產ガアツテ其總財產ガ自分ノ家格ヲ維持スルノヨリモ多イ、澤山ノ物ガアルトキニハ、其家ノ財產ノ中ノ一部分ヲ以テ家格ヲ維持スルニ足ルダケノ世襲財產ヲ作ルコトガ出來マスカラ、是ハ普通ノ場合デア、能ク分ルコトト思ヒマスケレドモ、其他ノ場合ニ於キマシテハ、總財產ガ自分ノ家格ヲ維持スルノ財產ト同ジヤウナ稍、同額ノ場合ガアル、又總財產ハ家格ヲ維持スルダケノ財產ニ少シ足リマイト云フヤウナ場合ガアル、斯ウ云フ時ニハ幾ラカ問題

が起ルノデハナイカ、華族ノ中ニ能ク位倒レシサウナ人ガアル、位ノ方ガ上デ財産ノ方
ガドウモ足リナイト云フコトハ随分華族ノ中ニモアルコトトモ思ヒマス、是等ノ時ニハ世襲
財産ヲ造ルノドウ云フ風ナ割合ニナル、最高限度ガ極メテアルノデコトモ思ヒマス、其場
合ニハ全財産ヲ世襲財産ニ入レルコトガ出来ルノデアルカ、或ハ出来ナイノデアルカ、ドウ
モ出来ナケレバナラナイノコトモ思ヒマス、扱ソコデ以テ若シ全額ヲ世襲財産ニスルコトガ
出来ルト假シマス、直グニソコニ起テ来ル問題ハ或ハ相續税ノ場合、負債ヲ負ウタ
トカ、又ハ臨時費ガ出タト云フヤウナコトノ爲ニ直チニ之ヲ解除シナケレバナラヌヤウナ必
要ガ茲ニ起テ来ル、サウ云フ必要ガ起テ負債デモ生ジタ場合ニハドウナツテ来ルカト云
ハ、家格ヲ維持スル範圍ノ世襲財産ト云フモノガ、ソレガ最高限度デアツテ、其最高
限度ガ自然ト下ニ下ツテ来テ、最高限度ノ方カラ云ツテモ解除シナケレバナラヌヤウナ
場合ガ出来テ来ルデハナイカ、此ヤウニ考ヘマスト最高限度ト云フモノヲ定メテモ、其最
高限度ガ或ル場合ニハ最高限度ニナラナイ、殆ド役ヲシナイヤウナ無用ナモノニナツテ来
ハシナイカ、斯ウ云フ面倒ナコトガ起テ来ルトスルナラハ寧ロ最高限度ト云フヤウナコト
ハ法文トシテハ書カナイデ、宮内省ノ内規ニテモ置イテ、宮内大臣ト對談ノ間ニ能ク其
家ノ格ヲ見テ、一部ノ財産デモ世襲財産ニスルコト云フ方ノ趣旨ガ寧ロ宜シイノデハナイ
カ、一方ニ又最高限度ヲ定メテ置イテ最低限度ト云フモノガナイノハ鈞合上變テアル、
最高限度ハ法律ニ決メルガ、最低限度ハ宮内大臣ニ唯任セルト云フノモ妙ナコトデア
ルソレカラ若シ又社會政策ノ點カラ議論ヲサレル方ハ華族トシテソレホド大キナ財産ヲ世
襲財産ニスルコトハ不都合デアルト云フ御説モ随分有力ノヤウニ伺フデアリマスガ、今
日マデノ場合、今マデノ例ニ徴シテモ全部ヲ世襲財産ニシタヤウナコトモ承リマセヌ
シ、又富豪ト雖モサウエライ世襲財産ヲシヤウト云フ考モナカラウ、宮内大臣モ相當ノ
監督權ヲ持ツテ居ル、又不認可ノ權利マデモ持ツテ居リマスカラ、ソレ等ノ場合ニハ都合
ガ付クデアラウ、之ヲ考ヘルコトハ寧ロ杞憂デアリハシナイカ、サウシマスレバ最高限度ヲ
定メナイデモ別段ニ害ハナイノデアル、サウシテ最高限度ヲ定メテ置イテ、最小限度ノ方
ノ鈞合モ取レ、又解除ヲシナケレバナラヌ必要モ起テ来マス、殊ニ唯今前ニ修正案トシ
テ出タ第四條ノ二項ヲ削除サレタヤウナコトデアラナラバ、第一條ノ方モ矢張り原案通
リニ世襲財産ノ設定ノ權利ヲ認メテ、サウシテ最高限度ト云フ方ハ止メラレタ方ガ宜
イノデナイカ、是ハ形式的ノ修正案ヲ提出スル譯デアリマセヌケレドモ、若シ其方ガ宜イ
ナラハ提出ラシテ見タイト思ヒマス、御相談旁、疑問ノ點ヲ伺ツテ見マス

貴族院華族世襲財産法改正法律案特別委員會議事速記第五號

大正五年二月十日

ネバナラヌコトデアラウト思フ、即チ其家ノ由緒、財産等ノ點ヲ考ヘテ初メテ定マルコトデ
アリマスガ、全ク各家ニ就キ、各場合ニ就テ判斷セネバナラヌコトデ、ソレデ凡ソドレホド
ノ金額、ドレホドノ收益ヲ生ズル財産ト云フヤウナ考ハ少シモナイノデ、サウ云フコトヲ一
般ニ定ムルト云フコトハ甚ダ實際ニ適シナイ結果トナルト思ヒマス、故ニスウ云フ抽象的
ノ標準ヲ置クコトニナツテ居リマス、極メテ漠然トシタモノデ、併ナガラ無キニハ優ルデア
ラウ、若シ斯ウ云フ規定ガナイ時ニハ、是ハ極端ノ例デアリマスケレドモ、數百萬或ハ數千
万圓ノ財産ヲ有スル人ガ其家ヲ維持スルニハ例ヘバ五十萬位世襲財産トシテ置ケバ十
分デアルノニ、數百萬ヲ固定セテシマフト云フコトニナツテシマツテハ甚ダ國民經濟ノ上
カラ考ヘテモ是ハ宜シクナイコトデアアル、又債權者ナドモ直接間接ニ損害ヲ被ルト云フコ
トモアルカモ知レヌ、マアサウ云フコトハ唯今御述ベニナリマシタ通り今日マデハ殆ド例ノ
ナイコトデアリマセウ、併シ巨万ノ財産ヲ有スル人ガ近頃ハ華族ニナルト云フヤウナ例ガ
段々殖エテ来マスルカラ、將來ハ必シモ絶無デアルト斷言スルコトハ出来ナイデアラウト思
フ、最モ適切ナ理由ハ恰モ廢止規定ト關聯スルモノデアリマシテ、初メヨリ多クノ財産ヲ
世襲財産トシテシマフト云フト、唯今御述ベニナリマシタ通り後ニ至ツテ廢止セネバナラヌ
ト云フコトガ生ジ易イ、サウ云フコトハ望マシクナイ、初メヨリ相當ノ限度ニ於テ設定シテ
置ケバ成ル可ク……能クノコトガナケレバ廢止ト云フコトハセズニ維持シテ行クガ宜イ、恰
モ廢止ノ豫防ト云フヤウナコトニ幾ラカナルデアラウト云フ考ヲ私共ハ有ツテ居ルノデア
リマス、宮内大臣ニ於テドウモサウ云フ債務ヲ近キ將來ニ於テ支辨セネバナラヌ、相續
税モ近キ將來ニ於テ拂ハヌナラヌコトニナルト、サウ云フヤウナ場合ニハ何程力減シタ方ガ
宜カラウ、モウソレダケ苦シイ財産状態デアレバ則チ家ノ格式ト云フモノガソレダケ降ツテ
居ルノデアアル、唯元五攝家デアルトカ、清華デアルトカト云フコトバカリガ家ノ格式デナイ、
財産ガソレマデニ少クナツテ居レバ其家ノ格ト云フモノモソレダケ降ツテ居ル、ソレニ相當
シタケニシテ……サウシテ又御話ニナリマシタ通り元來無形ノ格式ハ良イニシテモ財産ハ
餘計ナイ、サウ云フ場合ニハ固ヨリ全額ヲ世襲財産トスルコトハ茲ニ言フ範圍ヲ
越エルモノデナイト思ヒマスカラ、ソレダケノコトデアレバ無論宮内大臣ハ設定ヲ認可スルデ
アラウト思ヒマス、併ナガラ直キニ解カヌナラヌ、直キニ廢止セネバナラヌ、モウ目ノ前ニ是
ダケノ相續税ヲ拂ハネバナラヌコトガアルトカト云フ場合ニハ、サウ云フ方面カラシテ減シ
タラ宜カラウト云フコトハ起ツテ来ヤウト思フ、是ハ直接ニハ第一條ニ言フ範圍ヲ越エル
ト云フコトデアナイカモ知レマセヌ、併ナガラ廢止ト云フコトガ度々後ニ起ルノハ望マシイコト
デアナイノデアリマス、其方カラ云ツテモアスウ云フ標準ヲ示シテ置クト云フコトガ適當デ
アラウ、ソレカラマ一ツハ何ト申シテ宜シイカ、世間ノ人ニ安心ヲ與ヘルト云フヤウナ利益
モ幾ラカラウト思フ、世襲財産ハ何ホド澤山設定シテモ宜イ、解除ノ規定ガアルカラソ
レデ差支ナイト云ツテモ、是カラノ社會ト云フモノハ段々事業ガ發達シテ来テ固定財産ガ
殖エテハ宜シクナイノデアアル、事業ノ方ニ財産ヲ向ケルニハドウシテモ信用ト云フコトガ伴
ハヌケレバナラヌ、債權者ガ損害ヲ被ルト云フヤウナコトハ構ハナイト云フヤウナ考ヲ以テハ
事業ガ發達シナイコトハ私ノ申上ゲルマデモナイコトデアリマス、ソレ故ニスウ云フ、不融
通物ヲ造ルト云フコトハ華族ノ家ヲ保護スルニ必要デアレバコソ起ツテ来ルコトデアアル、ドウ
シテモ其限度ヲ越エテマデ此個人的發達ヲ圖ツテ行カヌナラヌ時勢ニ於テ、サウ云フ固

定財產ヲ府ヘルト云フコトハ宜シクナイト云フ觀念ヲ表示シテ置クト云フコトハ、大變此今日ノ時勢ニ於ケル幾ラカ進歩思想ヲ表示スルト云フコトナリハシマイカ、是ハマダ是カラ衆議院ヲ通ラヌ案デアリマスルカラ、サウニヤウナコトニモ氣ガ付イテ居ルト云フコトヲ示スノモ宜シイコトデアラウト考ヘテ、私共贊成イタスノデアリマス、固ヨリ漠然トシテ標準デアル、併シ昨日モ申上テマシタ通り收益一萬圓以下トカ、一萬圓以下トカト云フ標準ヲ定メテモ、ドウモ總テノ家ニ通ジテソレガ適切デアルト云フコトハ言ヘナイ、ドウシテモ漠然トシテ標準デアッテ、結局ハ宮内大臣ノ手心ニアルノデアリマス、其宮内大臣ガ認否ヲ決スルニ當ッテ何カ導キニナル觀念ガアルト云フコトハ、丸デ無イヨリモ幾ラカ利益デアラウ、斯ウ云フ理由モ極メテ茫漠タルモノデアル、ソレ故ニ極ク確タル法律關係ヲ定ムルト云フヤウナ意味ヲハナイ、元來漠タル觀念ヲ表ハスダケノモノデアリマスカラ、第一條ニ入レルト云フコトニナッタノデアリマス、ドウモ私共ハ有ッダ方ガ宜シイカト考ヘルノデアリマス、如何デゴザリマセウ

○男爵田健治郎君 私ハ唯今岡野博士カラ御發議ニナリマシタ第四條ノ二項ヲ削除シテ、八條、九條、十八條ノ修正、共ニ贊成イタスモノデゴザリマス、別ニモウ其理由ヲ申述スル必要ハゴザリマセウガ、唯第四條第二項ノ削除ト云フコトニ付テ御參考ノ爲ニ申上テ置キタイコトガアリマス、ソレハ此總財產ノ概況ヲ知ルニ足ル事項ヲ記スルト云フコトハ華族財產ノ機密ヲ初メカラ許カヌナラヌコトテ苦痛ニ思フ、從ッテ之ヲ申請スル人ノ意氣ヲ沮喪セシメテ申請シナイヤウニナルト云フコトガ一ツノ理由デアリマス、私ハマダ此外ニ之ヲ置ク必要ガナイト云フ一ツノ理由ヲ承リマシタカラ之ヲ申上テマシタ思ヒマス、此世襲財產ノ第二條ニアリマス通り家實、不動産、及有價證券等ニナッテ居ルノデゴザリマスガ、是ガ殘ラズ伴ハナクテハナラヌト申スコトデハナイト存ジマス、ソレ故ニ場合ニ依ッテ家實ノミヲ世襲財產トシテ設定シタイト云フ人モアリマセウ、又家實以外ノ不動産ナツテモ必シモ收利ノアルモノバカリト限リマセウシテ、所謂由緒アル邸トカ、土地トカ云フヤウナ餘リ收益ヲ目的トセザルモノヲ世襲財產トシテ設定シタイト云フノモアリマセウト存ジマス、サウニヤウナ場合デモ收益ノ伴ハナイモノバカリデハイカナイト云フコトハ宮内大臣モ言ヘナイノデアリマスカラ、矢張りソレデモ認可シナケレバナラヌ、此場合ニ於テ總財產ノ概況ナツト云フコトハ何モ知ル必要ハナイ、ソレデアリマスガ故ニ家實ヲ世襲財產トシテ設定シタイト云フコトヲ言ッテ來タノニ御前ノ身上ノ有様ヲ先キニ言ウテ來イト云フコトヲ言フノハ無用ナコトニシテ、餘リ酷ニナル譯デアリマスカラ、ソレ等ノ點ニ付キマシテモ、初カラ必シモ概況ヲ申出ナクテモ宜イ譯デアリマス、概況ヲ知ラナクテハナラヌト云フ時ニハ彼ノ六條ノ第二項ガアッテ、宮内大臣ガ調査スルコトガ出來ル途ガアルノデアリマスカラ、申請スル場合ニハ必ズ概況ヲ申出ルト云フコトハ、サウ云フ場合ニハ全ク贅物デアルト云フコトニナリマスガ故ニ、私ハ其ノ二項ノ削除ニ對シテハ極メテ宜シキヲ得タモノト其點カラ考ヘマスノデアリマス、所謂此削除ヲ致シマス一理由トシテ茲ニ御參考マデニ申上テ置キマス、ソレカラ今ノ水野子爵ノ第一條ニ付テノ御疑問ニ對シテハ富井博士ヨリ段々御説明モアリマシタノ御分リニナッタラウトハ思ヒマスガ、此以上蛇足ヲ加ヘル必要ハナイ譯デアリマスルケレドモ、私モ之ニ付テハ矢張り斯ウ云フ抽象的デアアルケレドモ、制限ノアル方ガ穩當デアラウト云フコトヲ信ジマスガ故ニ、私ノ信條ノ起ル所以ヲ

一應申上テ置キタイト思ヒマス、此華族世襲財產ノ可否ト云フコトニ付テハ、是ハ世間ニモナカクノ議論ノアルコトデ、又學者間ナツテハ於テハ最モ論ノアルコトデアラウト思ヒマスガ、其論ノアル中ノ最モ大キナモノハ所謂財產ヲ固定サセル、多クノ財產ヲ固定サスト云フコトハ國家ノ經濟ニ於テ或ハ惡影響ヲ及ボス虞ハアリハシナイカト云フコトガ、大イナル理由デアラウカト存ジマス、是ハ過日政府委員カラモ初メテ此制度ヲ立テラレル時ニモ矢張り其意ハアッタガ、先ツ今日ノ狀態デハサウ云フ虞ハナカラウト云フコトデ、何等ノ制限モナシニ出來タノデアアル、斯ウ云フ御説明モアリマシタガ、見ハ餘程注意スベキコトデアラウト思ヒマス、免ニ角此世襲財產ニ付テ或ハ國民ノ經濟ニ害ヲ及ボシハシマイカ、或ハ是ハ必ズ土地ニ屬シテ多ク起ルコトデアアル、此制度ノ結果或ハ過多ノ大地主ガ出來テ、全國ノ土地ノ大半ガ世襲財產ニナッテ、少數者ガ獨占スルヤウナコトニナル、サウスルト、他ノ多數ノ國民ハ之ガ爲ニ經濟上非常ナ不利益ノ地位ニ立タナケレバナラヌ、是ガ世襲財產ノ盛ニ起ツタ結果トシテ憂フベキコトデアアル、デアアルカラシテ、或場合ニ於テハ此土地ニ付テノ制限ヲ置ク必要ガアルトマデ學者ハ言ウテ居ル者モアルノデアリマス、之ヲ此各國ナツノ例ニ承ッテ見マスルト、世襲財產制度ノ一番古ク起ツタ國ハ英國デアルト承ッテ居リマス、此英國ハ既ニ六百年以上ノ場合ニ於テ世襲財產ノ制ガ行ハレ、殆ド此世襲財產ト云フモノハ其ノ時ノ貴族ノ土地ガ多ク世襲財產ニナリ、其世襲財產ト云フモノハ即チ土地ガ多キヲ占メテ居ッタ、ソコデ以テ其弊ニ堪ヘヌ爲ニ段々之ヲ解除シナケレバナラヌト云フ方ニ政治上ノ趨勢ガ起イテ來タ、一番古ク成立ッタ英國ガ一番早ク此世襲財產ノ弊ヲ受ケタ爲ニ、此世襲財產ノ繼續ガ出來ナクナッテ、今日モ存在シテハ居ルサウデアリマスルケレドモ、今日ノ英國ノ世襲財產ト云フモノハ極メテ微々タルモノデアアル、ソレハ詭リ餘リ土地ヲ多ク世襲財產ニ固定サレタ故ニ其害ニ堪ヘズシテ、成ルベク世襲財產ヲ消滅セシメヤウト云フ方ニ政治上方ヲ用ヒナケレバナラヌヤウニナッテ、今日デハ殆ド告朔ノ餼羊トシテ存シテ居ル趣デアルト云フコトヲ承ッテ居リマス、又佛蘭西ノ例ヲ引イテモ、「ナボレオン」第一世ガ帝王トナッタ頃、此貴族ノ世襲財產ト云フモノヲ大ニ獎勵シナケレバナラヌト云フ方針ヲ執ッテ、致々トシテ世襲財產ヲ設定セシメタガ故ニ、一時佛蘭西ノ世襲財產ト云フモノハ非常ナ高ニ上ッテ居ッタ趣デアリマス、世襲財產設定者ノ數ガ二千何百人、此收入ガケデモ二千九百九十九萬法ト云フヤウナル高ニ上ッタ、是ハ僅カ「ナボレオン」第一世ノ一代ノ中ニサウ云フ工合ニ上ッタ、所ガ一朝「ナボレオン」朝ガ潰レルト、其反動トシテ斯ル世襲財產ノ爲ニ國內ノ財產ヲ固定サセルノハ甚ダ不利益デアルト云フコトデ、其世襲財產ト云フモノハ忽チニシテ其政治上ノ論ノ爲ニ壞サレタト云フコトニナッタト承ッテ居リマス、サウニヤウニ世襲財產ガ折角出來テ居ルモノガ餘リニ偏シテ、世襲財產ニ固定サレルコトニナルト、必ズ又此反動ノ爲ニ之ヲ打壞サレルト云フコトニナルノハ已ムヲ得ヌト思ヒマス、ドウシテ見テモ、此世襲財產ハ必要ナリト認ムル以上ハ是ハドモマデモ保存シナケレバナラヌ、其保存タルヤ、成ルベク之ガ爲ニ國民經濟ニ害ヲ及ボサヌト云フヤウナル深キ思慮ヲ以テ矢張り設定シテ行クコトニセヌト、餘リ是ガ盛ニナルト、又其反動ヲ起スト云フコトニナッテ、根本的ニ壞サレル虞ガアルト云フノガ、私共ガ矢張り茲ニ或範圍ヲ設ケテ置ク必要ガアルト思フコトデ、所ガ今富井博士モ仰シヤル通り、之ヲ數字ヲ表ハストカ云フヤウナコトハドウシテモ出來兼ネルトスレバ、矢張り斯

ウ云フ抽象のモノヲ以テ、法ノ意ハ非常ナル巨額ノ財産ヲ固定スル趣意ナク、即チ其資格ヲ維持スルノ目的デアルト云フコトノ範圍ヲ示シテ置キマスレバ、初メテ宮内大臣モ此法ノ精神ニ依ッテ取捨サレルコトガ出来マスケレドモ、若シ是ガナイト云フコトニナルト、勿論宮内大臣ハ一方ニ於テ華族ヲ監督セラレルト云フコトモアリマスケレドモ、併ナガラ法ノ上ニ於テ許シテアル以上ハ宮内大臣ト雖モ唯手心ニ任シテ、是ハ多ウ過ギルト云フヤウナコトヲ餘リ干渉スルコトハ出来ヌ譯ニナリマスカラ、法ノ上テハ矢張り或制限ノ下ニ酌量……裁酌ガ出来ルト云フコトヲ宮内大臣ニ委任シテ置ク方ガ私ハ宜カラウト存ズルデアリマス、是ハ決シテ水野サンノ御疑ヲ解キ得ルヤ否ヤハ分リマセヌケレドモ、私ノ此原案ヲ賛成スル……修正案ヲ賛成スル所以ハソコニ在リマスカラ、御參考マデニ申上ゲテ置キマス

○富井政章君 岡野君カラ正式ニ廻ッテアリマシタカ、修正案ガ出マシタガ先程少シ意見ヲ述ベルコトガ前後イタシタカモ存ジマセヌガ、大體賛成ヲ表シテ置キマシタ通り、改メテ私モ賛成ヲ表シマス

○男爵田健治郎君 決ヲ御採リニナル前ニ私ハ一ツ希望ヲ申述ベタイノデアリマスガ、他ニ御修正説ガナケレバ申上ゲマスガ……

○委員長代理(子爵岡部長職君) 宜シウゴザイマス、何か御希望ガゴザイマスナラバ……

○男爵田健治郎君 私ハ希望トシテ政府ニ申上ゲテ、其希望ヲ成ルベク宮内大臣ニモ御通告ニナッテ、十分ニ御審議ヲ願ヒタイと思フコトガ一ツアリマス、ソレハ此度ノ原案ニ無クシテ、而シテ此所ヲ將ニ委員會ノ決ニ至ラトシツツアル所ノ此華族世襲財産審議會ノコトデアゴザイマス、是ハ全ク原案ニハゴザイマセヌノテ、小委員會ヲ研究ノ結果、斯ウ云フ必要ガアラウト云フノテ起ッテ參ッテコトデアリマシテ、多分是ハ委員會ニ於テモ可決サレルコトデアラウト推測シテ居リマス、愈々可決セラレタ以上ハ宮内大臣ガ此委員會ノ組織等ニ付テ相當ニ御詮議ニナルコトハ論ヲ待タヌデアリマスガ、私ドモガ希望シマスノハ、此審議會ヲ組織スル所ノ委員ノ選定方ニ於テ宮内大臣ニ特ニ御考慮ヲ願ヒタイト云フコトヲ申スデアリマス、是ハ定メテ有爵者又ハ宮内官ト云フヤウナ人ミヲ勿論委員トシテ御選ビニナルデアラウト存ジマスガ、私ドモノ尙ホ希望イタシマスノハ、其上ニ學識經驗アルト云フヤウナル人ヲ御入レニナリタイノデアリマス、ソレハ是マデニモ多少之ニ似寄ッタヤウナ宮内省ニハ會ノ組織モアルヤウデアリマスケレドモ、此世襲財産ノコトタル頗ル此法律其他經濟、種々ノコトニ涉リマスモノデアッテ、唯有爵者宮内官ダケデ之ガ御審議ヲナサルト云フコトモ如何カト存ジマスガ故ニ、成ルベク是等ノコトノ事情ニ能ク通ゼラレマシタル所ノ謂ハル學識經驗アルト云フヤウナル人ヲ此委員會ノ中ニ幾分カ御加ヘニナルガ最モ宜シキヲ得タコトハナカラウカト存ズルデアリマス、其學識經驗ヲ申スト、甚ダ漠タルコトデアリマスガ、一例ヲ申シマシレバ、其學識經驗アルト申スノハ、或ハ樞密顧問官トカ、大審院判事トカ、或ハ法科大学ノ教授トカ云フヤウナル……是ハ私ガ指定シテ申スデアリマセヌガ、例ヲ擧ゲテ申スデアリマス、サウ云フヤウナル人カラモ……所カラモ此委員會ノ中ニ若干御加ヘニナルト云フコトハ此審議ノ場合ニ於テ最モ實際ニ適シタル所ノ判斷ガ出来ルニ便ナルモノデアラウカト私ハ存ズルデアリマス、

ドウカ委員會ノ希望トシテ此事ヲ宮内大臣ニ御傳ヘニナルヤウニ致シタイト云フコトヲ私ハ發議イタスデアリマス、ドウカ御贊成ヲ願ヒマス

○委員長代理(子爵岡部長職君) 他ニ御發議ハゴザイマセヌカ

○子爵水野直君 私ハ小委員ノ方ニ御修正ニナリマシタ全部ノ御修正ニ賛成ノ意ヲ表シマス、尙ホ其中テ前回岡野博士カラ御修正ニナリマシタコトニ賛成ヲ致シマス

○委員長代理(子爵岡部長職君) 既ニ御發議モ盡キマシタト認メマス、先刻岡野博士ヨリ小委員ノ修正案ニ對シマシテ修正ノ御意見ガ出マシタ、ソレニ對シテ贊成モゴザイマシタ、其修正意見ヲ明カニスル爲ニ茲ニ一應朗讀ヲ致シテ見マセウト思ヒマス、第四條第二項、之ヲ削除スルト云フコトニナリマス、第八條、前條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ關シ權利ヲ有スル者「マデハ其儘テ」又ハ「ト云フ所カラ即チ」又ハ「民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分ニ著手シタル者」マデヲ削リマシテ「及債權者」ト斯ウ修正ニナリマス、第九條「宮内大臣ハ世襲財産ノ」ノ「」カラ即チ「設定ヲ認可スヘカラス」トアル「」ノ設定ヲ認可スヘカラス、是ダケヲ削リマシテ、其代リニ「認可ノ申請ノ全部又ハ一部ヲ認可スヘカラス」理由アリ、是ダケノ文字ヲ入レマス、即チ讀下シマスレバ「宮内大臣ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請ノ全部又ハ一部ヲ認可スヘカラス」理由アリト認ムルトキハ「云々」トナリマス、第十八條「世襲財産及第十六條ニ掲グル權利ハ、此下ニ「世襲財産ノ管理ニ因リテ生シタル權利及」ト云フ文句ヲ挿入イタシマス、又其下ノ「損害賠償ノ請求」ノ下ノ「ノ爲ニスル」ト云フ字ヲ削リマシテ「權ニ基ク場合ヲ除ク」ト云フ數字ガ這入りマス、之ヲ讀ミマス……

○富井政章君 「權利及」ト仰セニナリマシタガ、皆様ニ御相談デアリマスガ、「又ハ」ト云フ方ガ第二十五條ト揃ウテ宜クハアリマセヌカ

○奥田義人君 「及」方ガ宜イ

○富井政章君 「及」方ガ宜イカ、イヤ強ヒテ……ソナナ宜シウゴザイマス

○委員長代理(子爵岡部長職君) 讀下シテ見マス、「世襲財産及第十六條ニ掲グル權利ハ世襲財産ノ管理ニ因リ生シタル權利及不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基ク場合ヲ除ク」ノ外民事上ノ強制執行「云々」トナリマス、唯今朗讀イタシマシタノハ岡野博士ノ修正意見デアゴザイマス、修正意見ニ付キマシテ「一應決ヲ採リマセウト存ジマス、修正意見ニ御同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

總員 起立

○委員長代理(子爵岡部長職君) 全會一致デアゴザイマス、次ニ小委員ヨリ提出ニナリマシタル所ノ修正案ニ付キマシテ、即チ今ノ修正ヲ可決イタシタト見マシテ採決ヲ致シマス、別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長代理(子爵岡部長職君) 然ラバ全會一致ヲ以テ本案ハ小委員ノ修正ニ本日岡野博士ヨリ提出サレマシタル所ノ修正ヲ以テ可決相成リマシタ、是ニテ散會ヲ致シマス

午後三時五分散會

出席者左ノ如シ

副委員長 富井 政章君

委員

子爵平田 東助君

子爵岡部 長職君

子爵酒井 忠亮君

子爵水野 直君

奧田 義人君

岡野敬次郎君

男爵田 健治郎君

男爵本多 政以君

桑田 熊藏君

國務大臣

司法大臣 尾崎 行雄君

政府委員

法制局長官 高橋 作衛君

法制局參事官 馬場 鏊一君

司法省參政官 田川大吉郎君